



特殊能力をもつ少女が見た、現代社会の歪みとは『モナ・リザ アンド ザ ブラッドムーン』



“次世代のタランティーノ” アミリプール監督が描く、かつてないヒーロー像

古今東西、物語に登場するヒーローの多くは、何らかの特殊能力を持っている。たとえば、人間離れした知識やスキルを持っているとか、超人的な姿に変身できるとか、魔法や超能力が使えるとか……。映画『モナ・リザ アンド ザ

ブラッドムーン』（11月17日公開）は、血に染まったような赤い月の夜、突如“他人を自由に操る”という特殊能力に目覚めた少女と、混沌とした社会でもがく人々の物語だ。監督は「次世代のタランティーノ、現る！」と称される、アナ・リリ・アミリプール。長編映画監督デビュー作の『ザ・ヴァンパイア

〜残酷な牙を持つ少女〜』がサンダンス映画祭で絶賛され、監督第2作目の『マッドタウン』は、ヴェネチア国際映画祭審査員特別賞を受賞した。本作が第3作目となる。特殊能力をもつ少女、モナ・リザを演じるのは、『バーニング 劇場版』や『ザ・コール』などに出演し、本作でハリウッドデビューを果たした韓国人俳優、チョン・ジョンソ。ポップでエキサイティングな映像に魅せられ、惑わされるうちに、心が次第に解放されていく。現状から一歩踏み出したいあなたに、ぜひ観てほしい作品だ。

<STORY>

12年もの間、真っ白な壁に囲まれた精神病院の一室に隔離されていた少女、モナ・リザ（チョン・ジョンソ）。不穏な赤い満月の夜、彼女は突如として立ち上がり、“他人を自由に操る”特殊能力に目覚めた。自由と冒険を求めて施設から逃げ出したモナ・リザは、サイケデリックな音楽が鳴り響く、刺激と快楽とネオンの街・ニューオーリンズにたどり着く。この街でモナ・リザは、シングルマザーでポールダンサーのボニー・ベル（ケイト・ハドソン）と出会う。社会にうまく適合できず、自分をコントロールできないモナ・リザに、ボニーはやさしく手を差し伸べ、食事をごちそうし、11歳の息子チャーリー（エヴァン・ウィッテン）のいる自分の家で一緒に暮らそうと提案する。

© Institution of Production, LLC

一緒にご飯を食べたり、洗濯や買い物をしたり、日々の生活を共にしながら、ボニーやチャーリーとの交流を深め、抑圧されていた感情を少しずつ取り戻していくモナ・リザ。しかしボニーは、モナ・リザの特殊能力を利用するため、ある計画を考えていた……。

ニューオーリンズの街が映し出す、人々の生き様と自由への渴望

本作の魅力は、登場人物たちの個性際立つキャラクターと、それぞれの“生きることへの執念”だ。精神病院から脱走し、警察に追われながらも、自らの特殊能力を駆使して、自由を求め続けるモナ・リザ。息子との生活費を稼ぐため、ポールダンサーとして日々、戦場ともいえるストリップ劇場で、金払いの悪い客たちを相手に、派手なメイクと衣装を武器に戦い続けるボニー。そして、幼いながらも聡明で正義感が強く、自分の人生や母親への複雑な感情を抱えているチャーリー。この3人だけでなく、モナ・リザをどこまでも追跡する巡査ハロルド（クレイグ・ロビンソン）や、モナ・リザに恋をする自称DJのファズ（エド・スクライン）など、それぞれの人物像がていねいに描かれ、ダークでミステリアスな世界に、人間的な味わいを添えている。また、舞台であるニューオーリンズの街も、本作において重要な役割を果たしている。アメリカ合衆国ルイジアナ州の最大都市であるニューオーリンズ。この街でかつて暮らした経験をもつアミリプール監督は、本作のインスピレーションを得たきっかけをこう語る。「すべてのアイディアは、ニューオーリンズの沼地と、その上に浮かぶ月から生まれました。ニューオーリンズに降り立ったとき、何かピンと来ましたね。原始的で、クレイジーでカラフル、エレクトリックな場所です」

© Institution of Production, LLC

多様な木々が生い茂るニューオーリンズの沼地、夜空に煌々と輝く月、さまざまな思いや背景を抱えた

人々が交錯するエネルギッシュな都市部。この街は、カオスな現代社会の冒険を描くうえで、絶好の舞台なのだ。

人が生きるうえで重要な“相手の心や行動を促す”スキル

「もしも特殊能力が持てるなら、何がいいか」という問いを、子どものころから度々考えることがあった。その時が来たら、予知能力かテレパシーか、どちらかを選ぼうと思っていた。しかし、本作でモナ・リザが持つ“他人を自由に操る”能力が選択肢にあるのなら、もう、これしかないよね、と確信した。なぜなら、人の心や行動を思い通りに促すことは、社会を生きるうえで、もっとも重要なスキルだからだ。どれだけお金を積んでも、どれだけ脅しても、人はそう簡単に、思い通りには動いてくれない。モナ・リザというキャラクターを生み出した経緯について、イラン系アメリカ人という背景をもつアミリプール監督は、こう述べている。「アメリカで育った私は、よそ者であることを常に自覚していました。自分の本当の居場所はどこなのだろうと、いつも考えていて、そんな子ども時代の私に力を与えてくれたのは、ファンタジー映画に登場するヒーローでした。彼らを見ると、自分の存在を理解してくれていると感じ、自由を求める気持ちがさらに強くなります。そんなヒーローを自分でも描きたいという欲求から、モナ・リザというパワフルで超自然的な能力を持つキャラクターが生まれました」どんなに困難な状況でも、恐怖を感じることなく、他人の行動をコントロールできるモナ・リザは、確かに最強のヒーローだ。しかし、相手に寄り添い、気持ちに共感し、コミュニケーションを重ねていけば、特殊能力を使わなくても、互いにわかり合うことはできるはずだ。

© Institution of Production, LLC

アミリプール監督が生み出した新しいヒーローは、名前のイメージとは裏腹に、そんなに簡単に微笑んではくれない。しかし、生まれたばかりの赤ん坊のような視点で世の中を捉え、歪んだ現代社会の課題を鮮烈にあぶり出していく。

文：小川こころ（文筆家／文章スタジオ東京青猫ワークス代表）

<作品データ>タイトル：『モナ・リザ アンド ザ ブラッドムーン』原題：Mona Lisa and the Blood Moon監督・脚本：アナ・リリ・アミリプール出演：ケイト・ハドソン、チョン・ジョンソ、クレイグ・ロビンソン、エド・スクライン、エヴァン・ウィッテン2022年／アメリカ／英語／106分／カラー／ビスタ／5.1ch／字幕翻訳：高山舞子／G提供：木下グループ配給：キノフィルムズ2023年11月17日（金）ヒューマントラストシネマ渋谷、新宿シネマカリテほかにて公開公式サイト：<https://monalisa-movie.jp>© Institution of Production, LLC

© Institution of Production, LLC